

平成27年8月 岡山市教育委員会臨時会 会議録

1 開催日	平成27年8月4日 (火)		
2 開会及び閉会	開会	14時05分	
	閉会	15時46分	
3 出席委員	委員長	曾田佳代子	
	委員	東條光彦	
	委員	奥津晋	
	委員	塩田澄子	
	委員(教育長)	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	植田朋哉	審議監(学校教育担当)	天野和弘
審議監(生涯学習担当)	山口啓二	教育企画総務課長	赤野政治
指導課長	岡林敏隆	指導課教育支援室長	服部道明
指導課課長補佐	平井秀尚	保健体育課課長補佐	友末修三
指導課指導副主査	於東由憲	指導課指導副主査	戸川倫通
事務局(教育企画総務課主査)	生田裕宣	事務局(教育企画総務課主任)	大西正記
5 議題及び結果			
第26号議案	平成28年度使用教科用図書採択について		原案可決
6 議事の概要			
委員長 委員長 全委員 委員長 全委員 委員長 指導課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8月岡山市教育委員会臨時会を開催する。 ○ 本日の傍聴希望者は8名。入室を許可してもよいか。 ○ <承認> ○ 日程第1, 会期は本日1日限りとしてよいか。 ○ <承認> ○ 日程第2の議案に入る。第26号議案を指導課から説明願う。 ○ 第26号議案については、岡山市立小学校、岡山市立中学校及び岡山後楽館中学校、岡山後楽館高等学校並びに小学校及び中学校の特別支援学級における平成28年度使用教科用図書を採択していただくものである。 前回、中学校及び岡山後楽館中学校で使用する教科用図書の採択の一部、岡山後楽館高等学校、それと小学校及び中学校の特別支援学級における使用教科書については、ご審議をいただいた。本日は、引き続いて、中学校及び岡山後 		

楽館中学校で使用する教科用図書5種目、そして小学校で使用する教科用図書の採択をよろしく願います。

中高一貫校である岡山後楽館中学校については、他の中学校とは別に採択を行うこともできるが、岡山市においては、他の中学校と同じ教科用図書の採択を行ってきている。

なお、採択した結果については、他の採択に影響を与えかねないということであるので、9月1日までは内々にとということでもよろしく願います。

本日お集まりの報道関係の方、それから傍聴人の方についても、8月いっぱいには外に漏らさないようにご配慮いただくようお願いいたします。

前回もご説明をしたが、教科用図書選定資料について簡単に触れさせていただく。

1点目は、岡山市の教育方針である自立する子どもの育成に向けて、豊かな人間性、自分を高める、共に生きる、以上の3つの観点を踏まえ、調査研究を行っている。

2点目は、岡山市の子どもの課題を少しでも解決するという点である。各教科、種目における岡山市の子どもの課題については、この後、各担当から説明をする。

委員には、6月中旬に見本本をお送りし、内容には目を通していただいていることと思う。また、教科用図書選定資料も事前に届けており、独自の調査研究を進めておられると思うので、本日、ご審議の際に必要なに応じて参考にしていただければと思っている。

また、教科書展示会でのアンケートを、机上に置かせていただいている。参考にしていただければということである。

では、これから種目ごとに採択する教科用図書及び採択理由のほうを決定していただく。

進め方については、前回と同様、まず、事務局から教科書の種目ごとに岡山市の子どもの課題や教科用図書選定委員会が出された意見について簡単に説明する。

続いて、見本本または選定資料について質問、確認事項があればお願いをする。そして、意見交換をし、採択すべき教科用図書とその採択理由を決めていただきたい。採択理由については、3点程度にまとめていただければありがたい。以上で説明を終わる。

では、よろしく願います。

○ それでは前回からの続きを議論したいと思うが、美術について、事務局から説明をお願いする。

○ 美術について説明する。

岡山市の子どもの美術における課題は、特に思ったように表現できないことから表現することに自信をもちにくいということである。そこで、思ったように表現できるようになることに着目して、美術の3社の教科書の特徴をお伝えする。

まず、開隆堂である。題材に関連する知識や情報を示すコラムが設けられていたり、身近な作品が掲載されていたりするように、創造的な表現活動ができるように工夫されているという意見が出た。

次に、光村図書である。巻末の学習を支える資料に、材料や用具の取り扱い等の資料が豊富に掲載されており、また、関連があるページが示されているため、生徒が自分でそれらを参考にしながら表現することができるようになっているという意見が出た。

最後に、日本文教出版である。教科書の横幅が広げられ、情報量が増やされており、見開きページが有効に活用されていたり、紙質が変えられていたりするな

委員長

指導課指導副主査

<p>委員長 東條委員</p>	<p>ど、鑑賞活動を充実して行うことができるようになっているとともに、3分冊にすることで体系的な学びができるようになっていという意見が出た。</p> <p>○ それでは、美術についてどうであったか。</p> <p>○ 3社なので、順に申し上げたいと思う。</p> <p>まず、開隆堂であるが、今、説明にも少しあったのだが、表現活動が割と生徒主体でできるように工夫されているという感じがあり、これはこれで決して悪くはないなという感じがした。</p> <p>それから、光村図書、これは確かにこのとおりにやっていくと色々なことが自分でできるというような工夫ができていものだろうと思うので、そういう活動が苦手であるという子たちには向いているのだろうなと思った。</p> <p>それから、日本文教出版に関しては、日常的な生活との関係というのは割とイメージしやすいように配慮された構成になっていると思われたので、それぞれに長所があると思った。ただ、今、事務局から説明があったように、思ったように表現ができないというところがどうもウィークポイントだという子たちだというふうに伺ったので、そういうことに対して補助してくれるような機能がより高いものがよいと考えたので、それぞれよいが、私は光村図書がそういう点では向いているのではないかと思った。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 私のほうも3社だが、開隆堂は中身が濃いなと思ったのだが、説明的なので、少し表現が、子どもたちに夢を育むといったら、ちょっと大分心が要るのかなという感じがした。</p> <p>それから、あとの2つについてであるが、教科書の冊数として、光村図書は2、3年生が1冊に印刷されている。それから、日本文教出版は、2、3の上と下となっているのであるが、現場の実態として、中3は週に何時間あるのか。35時間丸々はないのか。</p>
<p>指導課指導副主査 委員長 指導課指導副主査 委員長 指導課指導副主査 委員長</p>	<p>○ 中3は週1である。</p> <p>○ これ全部、1、2、3学期通して35時間か。</p> <p>○ そうである。</p> <p>○ 1年間で35時間ある。そうしたら、これが3冊でも大丈夫ということなのか。</p> <p>○ そうである。</p> <p>○ そうであれば、私は日本文教出版と光村図書であれば、和の世界が圧巻なので日本文教出版がよいと思う。この「東へ西へ」の部分など世界の中での美術の捉え方ができている。それから、光村図書ももちろん俵屋宗達の風神雷神図など大きなものがあり、圧倒されるようなところがあるのだが、体系的にできているのは日本文教出版かなと思った。それから、岡山の土地と、風土で考えると、日本文教出版は伊勢崎淳さんが扱われている。光村図書は、大原美術館に行こうというホームページがあるという少しの紹介だけなのだが、備前焼の伊勢崎さんが取り上げられて、さらに奥ゆかしいことに人間国宝などとは書いていない。作品だけが大きく出て、何か奥ゆかしいなという感じである。作品を主体にアピールするところを持っていったのかなという感じがした。それから、機能美のほうでも、日本文教出版は椅子など、実際の実生活とリンクして子どもたちが考えられるようなことをしているので、日本文教出版が1で、光村図書が2ということにしていった。</p>
<p>○奥津委員</p>	<p>○ 私も開隆堂は、作品を見ることに説明が必要であるというようなところに関して、少し他より読みづらいなと思った。光村図書と日本文教出版は、まず、サイズについて日本文教出版が少し大き目になっていて、ただ、その分3冊に分かれていて、1冊当たりの重さは、大きくなったけど軽い。少し中学校の教科書を見させてもらったが、重いのが結構気になるといえば気になるところがあって、できることであれば1冊当たりは、もちろん内容に困らない範囲で軽いというのは</p>

よい点ではないかなと思った。やはり2つを比べてみると、良質な見本というか、作品を見せるという意味では日本文教出版のほうが優れているのではないかなと思った。必要なところは大きくとって大きく見せているし、そういったケースがかなり多く見られた。光村図書のほうは、逆に割とある程度作品数があるが、少し写真が小さいと思った。色々な作品でも、有名なものなど、そうではなく、生徒作品などもあるのだが、全体としては、鑑賞するという意味では日本文教出版のほうが理想に近づけるものではないかなと思った。光村図書は、つくり方や描き方など技術的な面に力を入れているのかと思ったが、やはり美術であるので、まず、鑑賞眼というか、親しんでいくというところを重視したほうがよいと思うので、私としては日本文教出版がよいかなと思っている。

塩田委員

○ 私も言われているとおりだと思う。何か光村図書と日本文教出版では、少し方向性が違うように思う。光村図書の学習を支える資料は、描き方のわからない子どもたちにとっては、非常に有効な資料ではないかなと思った。岡山の子の課題がそうであるならばと思ったが、日本文教出版の、和の取り上げ方。見開きの千手観音も三十三間堂に行けばこういったものがあり、そのすばらしいことや、2の上には富嶽三十六景があり、それがすごい迫力であるというところから、鑑賞眼を養うというような、より芸術的な面で行くと日本文教出版かと思う。それと同時に、美術の先生は芸術的なセンスを磨かれている先生であるということであれば、説明よりも、こういったもののほうが授業で使いやすいのではないかなと思った。日本文教出版である。

教育長

○ 先ほどから話題に出ているが、子どもたちの創作活動というものについて、その表現をしていくことを大切にされているというのはどの出版社も同じように思ったが、その中で、日本文教出版は、この見開きの大きなので日本の文化を出してきている。それから、光村図書は同じようにそういう日本の和というものを取り上げながら、意欲的な学習を展開できるような工夫もされているような思いがした。

開隆堂も身近な作品が多く出ている。それから、光村図書のほうは、教科書を使っての学習には、流れ、展開としてわかりやすくなっているのだと考える。

日本文教出版については、3分冊にしたということもあるのかもしれないが、領域的な、系統的な指導というものが子どもたちの発達に合わせてできるような工夫をされていることがある。もう一つ、この特別支援教育というものから見たときに、少しそこを書かれている。特別支援教育の視点を入れ込みながらつくられているというところがあった。もう一つは表現を意欲的にするというのか、表現活動を広げるというふうな意味からも考えたときに、日本文教出版は教材が感性を豊かにするような内容というものも取り上げられていて、少し子どもたちの課題には対応できるのかなと、少しでも役立つのかなとも思って、日本文教出版を上げたいと思う。

委員長
東條委員

○ 東條委員はいかがか。
○ それぞれ別のよさがあるので、先ほど指摘があったように、そのよさの出し方の方向が少しずつ違うだけだということ。それで、私は、ほかの教科のときもそうだったが、岡山の子どもの課題に、より対応したもののほうがよいだろうなと思ったので、光村図書がそれには該当するかなと。つまり、できないという子ができるようにしようというあたりが、割と明確に出ているのでよいと考えた。ただ、いろいろ指摘があった日本文教出版のこういう示し方など、確かにすごいと思ったが、その辺りは少し、大人としての趣味の話だろうということである。教えていくときに使う材料としてどうかということでも評価したということである。ただ、それぞれが全部欠落しているわけではないので、もちろん光村図書のものもそれはそれでよいと思っているので、異論はないが、これがよいなと思っ

	<p>た根拠は、先ほどから申し上げていることと重複するが、子どもの実態とより合ったと思われたものがそれだったということである。日本文教出版のほうが、より自由度が高いというか、教えていくときの自由度が高いという感じがしたので、美術の先生方のそういう意味での力というか、それが生かされやすいという意味では。</p>
委員長	<p>○ 日本文教出版は、色がシャープできれいな感じがする。もちろんどれもすごくきれいだが、美術はやはり発色がよいものがよいのかなとも思った。それと表紙で何を語るかというのは好みであろうかと思う。抽象画など、このあたりは現場の先生がどういうふうに思われるかというのは全然わからないが、やはり美術ということは表紙を見ただけでわくわくすることも必要であろう。</p>
教育長	<p>○ 先ほど東條委員も言われたが、光村図書は教科書の展開をなぞるというとよくないかもしれないが、それをやっていくことによって学習ができるような形にはなっている。先ほど自由度が日本文教出版のほうが高いのではないかという言われ方をしたのと、その違いはちょっとあるのかと。</p>
委員長	<p>○ 現場の先生がしっかり美術というものを、どんな力をつけていくのかというのを。</p>
教育長	<p>○ 日本文教出版は、現場の先生が少し力を発揮しないといけないかもしれない。</p>
委員長	<p>○ 教育委員会としては、今の話の内容では日本文教出版ということによろしいか。</p>
全委員	<p>○ <承認></p>
委員長	<p>○ それでは、日本文教出版ということでまとめをお願いします。</p>
指導課課長補佐	<p>○ 1点目であるが、備前焼が取り上げられているなど、作品を主体的に鑑賞できるよう配慮されている点。2点目は、日常生活と関連して作品の機能美が取り上げられており、学んだことと日常生活が深く関係していることが実感できるよう構成されている点。3点目は、見開きに日本の文化が、大きく、体系的に取り上げられており、意欲的に学習できるよう工夫されている点。この3点でいかがか。</p>
委員長	<p>○ よろしいか。</p>
全委員	<p>○ <承認></p>
委員長	<p>○ それでは続いて保健体育をお願いします。</p>
保健体育課課長補佐	<p>○ 保健体育についてご説明をする。</p> <p>岡山市の子どもの保健体育における課題として、特に身近な問題でもあるにもかかわらず、健康に対する関心が低く、心や体の状態などについて自分自身の課題を見つけにくいということが上げられる。そこで、身近な健康課題に関心を持つということに着目をして、保健体育の4社の教科書の特徴をお伝えする。</p> <p>まず、東京書籍である。各内容で、「やってみよう、考えてみよう」を取り上げることで、生徒が身近な話題から興味を持って授業に参加することができるという意見が出た。</p> <p>次に、大日本図書である。各内容の「学習を生かして」には、身近な健康課題を問う発問が多く、自主的な学習に結びつけられるよう工夫されているといった意見が出た。</p> <p>次に、大修館書店である。図やグラフ、絵などの資料が実生活の場面を例に具体的に取り上げられていることが多く、生徒が健康課題を身近に考えられるといった意見が出た。</p> <p>最後に、学研である。本文が簡潔に記述されているとともに、資料が多用されることによって生徒が興味関心を持って健康課題に取り組むことができるという意見が出た。</p> <p>以上で説明を終わらせていただく。</p>

<p>委員長</p>	<p>○ 4社であったが、大日本図書と学研はよく似ているなどと思った。大日本図書のほうは心肺蘇生、AEDのことや薬物乱用が随分詳しいと思った。学研のほうは、データが豊富なのだが、がんについての扱いが少ないなど。2人に1人ががんになるという時代に、他の出版社より少ないなどという感じがした。</p> <p>大修館書店と東京書籍なのだが、どちらもよくできていて、絵や図はそれぞれにあるし、健康課題についても、東京書籍のほうは喫煙の場合と飲酒と薬物の場合と感染症をかなり重く扱っていたと思う。大修館書店のほうも、それをかなり扱っており、岡山市ががん対策は割と審議会もできて、市全体で取り組んでいこうというときに使いやすいかという感じがした。迷ったのであるが、最後の決め手が、東京書籍はオリンピックだけ書いてある。大修館書店は、オリンピック、パラリンピックが日本にやってきたということで、視点が少しだけ広いのかなという感じがした。当然、オリンピックといったらパラリンピックも入っているのだろうが、教科書にそれを書いたということは、障害がある人たちのこともちゃんと踏まえているよということがあったのではないかと思ったので、大修館書店がよいと思った。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 私のほうは、まず、東京書籍が学年ごとにある程度区切っており、めり張りがつきやすいのかと思った。1年、2年、3年とそれぞれの学年で履修するところが区切っており、全体的に記載内容や絵・図表の使い方がわかりやすいような形で、他と比べてうまいなどと思った。</p> <p>薬物や喫煙についてそれぞれちょっと重点的に見たのだが、どこもある程度は書いているのだが、ただ、何か若干データが細か過ぎるかなと思うようなところがあった。ある程度、端的に、しかもわかりやすく、特に薬物、喫煙のあたりの害などデータがきっちり載っていたのが東京書籍ではないかと思ったので、東京書籍を推したいと思う。若干ほかの教科書に比べたら少しだけ大きいのだが、それもまあしかたがないかと思った。3年間使う教科書になるのであろうから、そういうところもよいと思った。あと、デザインの面から、一番こなれているのではないかと思って、私は東京書籍を推したいと思う。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ 私は、保健のほうから見てみたのであるが、中学校の学校保健といえば、性やメンタル、感染症、たばこ、薬物乱用、それからアレルギーがあると思って見てみたが、アレルギーを取り上げていたのが大修館書店と学研である。</p> <p>大修館書店のほうは、アレルギーをコラムで、食物アレルギーのエピペンが出ていた。これは岡山県内でもエピペン使っている子どもたちが300人前後いるが、そういったところを考えると、必要なものかなと思った。それから、学研のほうは、アレルギーを項目の一つとして取り扱っているというところで、アレルギーがあつて、その中の食物アレルギーか、エピペンかというものであるならば、誘導の仕方でいけば、やはり項目立てがしてある学研がよいと感じた。</p>
<p>委員長 塩田委員</p>	<p>○ 学研ということであるか。</p> <p>○ そうである。要するに必要なものが項目で立っているかというところで調べたので、やはり現代はアレルギーというのは欠かせないという、そういう気持ちである。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 学研は、保健は確かに少し、口絵等を見たときにも、他の3社に比べて少し量が多い。3社のほうは、どちらかという体育領域を多く取り扱っているということは言えるので、岡山市の子どもの健康への関心という面から見たら、学研ということも考えられるなどと思ったが、もう一つは、全体で学習を進めていこうというときに、大修館書店のほうは、文章表現が多くある。文章表現があつて、さらにその文章を読みながら学習を進めていくことで理解できるようになっている。先ほども説明があつたように、図やグラフというものがやはり実生活に基づいたものが取り上げられてきているということもあつて、その面から考えれば、</p>

東條委員	<p>子どもたちが自分の関心へ、健康自身に関心を深めていく、そちらの方面からは攻めていきやすいと思っている。</p> <p>そして、自分の課題を見つけて自分で学習していこうということで考えていけば、先ほども大修館書店のほうは本文に沿った学習展開を進めていって、関連資料を見ながら学習内容をまとめることができるというような展開の仕方ができるのかと思う。総合的に見たときに、やはり大修館書店がよいと思っている。</p>
委員長	<p>○ これも、先ほどと同じように、それぞれのカラーというか、そういうのがあるなということで、例えば東京書籍や学研は、割と資料を活用しているタイプのものか。それから、今、ご指摘にあったが、大修館書店や大日本図書は、総体的に文章が多いと思った。それで、先ほどの教科のときにも言ったが、岡山の子どもに関して言うと、関心が低いという、ぴんときてないということなのだが、そういう子どもたちに対して使うということかというと、余り文章が多いと引いてしまうだろうと。資料を見て、そういうことから関心を深めていくというほうが、実情としては合っているのではないかと思ったので、東京書籍か学研かどちらかがよいと思った。</p> <p>あともう一つ、先ほどもうご指摘があったが、東京書籍の教科書は、学年ごとに保健領域と体育領域という順序で組まれていて、それはそれで使いやすいさうだと思った。それから、安全などに関して内容が充実しているのがよくわかったので、とても現代的だと思った。</p> <p>学研は、同じように保健領域から体育領域という順番の配列になっているが、アレルギーに関してかなり詳細に記述があるということと加えて、心の健康に関してかなり重視している感じがあって、私は自分の専門領域がそういうところであるから、これはよいと思った。</p> <p>それで、東京書籍と学研と両方それぞれよいと思ったのであるが、心の健康ということをより重視していると見受けられた学研がよいという感じを今のところ受けている。</p>
委員長	<p>○ いろいろと皆さん考えが違うようなのであるが、どこに集約させればよいかと。データなど扱っている内容で、塩田委員は薬がご専門なので、例えばそういう目で見たとときに、あの資料はよかったりデータが使いやすかったり、そういうことはなかったか。</p>
塩田委員	<p>○ そこまでは。そういう観点からは見ていなくて、とりあえず、中学校の保健で必要な項目は何かということからいえば、少しでも触れていけば、そこから話が広がっていくのかということと、その何か内容の強弱ではなく、そういう項目立てがあるかないかという観点で見ていったので、その点は詳しくは見てなくて申し訳ない。</p>
委員長	<p>○ これは、保健体育の教科書ということで、毎時間は使わないようだが、そういうときに読み物として読める内容が多かったら自主学習がしやすいのか、じっくりと読んで宿題になるようなことはないからコンパクトにまとめているほうがよいのかということ、どうなのか。課題に使うようなことはあるのか。年間を通してあまり詳しいのは、子どもたちに理解がしにくいのか。書いてあるほうが理解しやすいか、いかがか。</p>
保健体育課課長補佐	<p>○ 保健については、3年間で48時間を学年・内容によって適切に配分していくことで、1年生については、大体10時間ちょっと、10から12時間程度、2年生が20時間弱、18から20など、これはもう学校の先生によって違ってくると。3年生が20時間程度ということで適切に配分していくことであって、その中で取り上げる領域にもよるとは思う。生徒の実態に応じてというふうなことになるとは思うが、教科書自体を読み物というふうな扱いというよりは、教科書を使って思考を広げていくものが、今の保健の授業での主流と捉えている。</p>

<p>委員長 東條委員</p>	<p>○ そうであれば自主的に家庭学習するなどというイメージではなくてよいと。保健体育の先生が授業として指導するのか。いかがか。結局、3社に分かれている。</p> <p>○ 学研である。大修館書店は、体育の分野のところで、運動やスポーツの心得の効果という項があり、その中にソーシャルスキルというのが入っている。これ、少し何か言い過ぎではないかと思ひ、ややそこに違和感があつて、1票を投じにくかつたという感じである。余り運動礼賛みたいになり過ぎているような感じがした。確かに一過性運動というのがアメリカでは健康に寄与するというのはデータとしても出ているし、このことを言うのはよいのであろうが、ソーシャルスキルというのは、どちらかというとな保健領域の話として何か社会的なコミュニケーション力というようなあたりとの関連で書いたほうが適切なように思ひ、内容は検定を通過しているのだから別に悪いと思われたわけではないかもしれないけれど、私の視点からすると少しびんとこなかつたので、推薦しにくかつたということがある。</p>
<p>委員長 東條委員 奥津委員</p>	<p>○ 結論はどうか。</p> <p>○ 学研である。</p> <p>○ 私は、東京書籍の次は学研がよいと思ひつていて、やはりデータや図表など、そういったのは充実している感じだというふうにな。なぜ学研より東京書籍かと言つたら、少しスポーツ面が弱いかなと思つた程度なのだけれども。だから、そんなにスポーツ面を使つての授業での活用が余りないのだとすれば、そこは学研でも同じような充実度かなという感じは持つていた。</p> <p>大修館書店は、悪くはないと思つたのだが、ちょっと全体的な印象として、何か少し具体的に言葉に非常にしにくいのであるが、何かほかの教科書のようななど。ほかの教科書と言つたら変だが、保健体育らしくない感じが少しあつた。</p>
<p>委員長 教育長</p>	<p>○ ほかはいかがか。</p> <p>○ 確かに先ほどから出ている大修館書店は文章量が多い。説明調になつていて。それから、学研のほうは、そこは抑えている。抑えながら、資料などによつて考えさせることができるような工夫をされていると言ひえる。結局、この保健体育の授業の中で、学校も含めて子どもたちにとって何がよいかと言つたときに、子どもたちが、自分自身に関心が向きにくい。実生活、実体験の中でそれらが生まれてくるような形、配慮ということを考えれば、これは、大修館書店のほうも、グラフなど先ほど言つたものは実生活から起つてきている。ところが、学研は、今言つた、資料等によつてそれらの課題解決へ向けて学習展開できるような形をとつていると思ひう。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ いかがか。</p> <p>使うとして、子どもたちが、先ほどの課題で言ひえ、健康課題があるということである。世の中も余り薬を使わないように、自分の健康は自分で守るような風潮がだんだんできてきているから、教科書の中に青少年期から心も体も鍛えるみたいな記述はどの本にもあつたのではないかと思ひう。使いやすさで言つたらいかがか。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ 正直使いやすさで言ひえ、東京書籍かなと思ひつていた。最初めくつて見ているときに、見やすいということがあつて、読んでも生徒たちがわかりやすいと思ひられる。ただ、そういった網羅しておいてほしい内容が少し欠けているかと。教科書になれば、そこには触れられないのではというおそれがある。学研と大修館書店はそこに少し触れていたところだつたのだが、そういう学習指導要領というのか、中に入らなければならぬものかどうかも、もちろんそれがなければ通つていくわけなので、その項目にはそれほどこだわらないけれど、情報量として多いなと思つたのは、やはり学研と大修館書店であつた。</p>

委員長 保健体育課課長補佐	○ 学習指導要領は、アレルギーの扱いはどうなっているのか。
委員長	○ 必ず扱わなければいけないというものではない。発展的な扱いとして触れていくということになる。
塩田委員	○ ただ、学校の実態としたら、給食など、そのほかでアレルギーというのはもう避けて通れないことだから、先生方が触れてくれることは触れてほしい。そのような記述があるのが大修館書店と学研だ。
委員長 塩田委員 委員長	○ 学研はそれほど記述が詳しくはないが、1項目として取り扱っているところである。
奥津委員	○ あれば、先生方は膨らませることはできるだろう。
委員長	○ あと、欄外にその注射もあるとの説明はあったが。
塩田委員	○ いかがか。大体2社に集約をされているようだが、東京書籍も捨てがたいと言いながら、大修館書店と学研のどちらかということになるようだが、どちらがよろしいか。現在の岡山の子どもたちの課題に、1冊で3年間使うということで、48時間を3等分するスパンの中で、子どもたちの健康を考えるとということであれば、1番良いのはいずれか。
奥津委員	○ 喫煙の扱いも気にはなる。今、学齢期からたばこを吸っている子どもも多い。
委員長	○ 大修館書店は喫煙と肺がんのことは書いているが、ほかのがんのことは出てこなかったのではないか。例えば、食道がんなど。
塩田委員	○ 子どもにとって身近なのがたばこを吸ったら肺がんになるのであるなど、そのことで多いのではないかと思うのだが。
奥津委員	○ それから、もう一つは薬物乱用が出ているようだから、薬物の指導のところは絶対保健で取り上げてほしいと思う。
委員長	○ 学研は結構ページを割いてたばこ薬物については書いてあるかなというふうに思う。
東條委員	○ 喫煙など、いろんながんと関連というのは学研と東京書籍が割と多いかなと思った。
教育長	○ 飲酒よりは喫煙のほうが子どもたちに早く害を教えたいと思う。
委員長	○ いかがか。これは、合議制なので、皆さんの考えを。では、二者択一というか、手を上げなくてよいが、大修館書店か学研かというところで、一言ずつよいと思うことを言ってくださったら。
委員長	○ 身体的な病気に関しても大事な、要するに今のがんの話もそうなのだが、あとアレルギーもそうなのだが、心の健康ということに関しては、余りふだん触れる機会がないので、ここの辺でそこを大事に扱ってくれているというところが、学研はそこを重視してつくられているという意図が見えたので、私は学研のほうがよいかというふうに引き続き思っている。
委員長	○ 先ほど大修館書店のほうは、読みながら学習できるという言い方で子ども自身が学習の展開というものを自分自身でできるような構成になっているのではないかとこのことを申し上げたが、そこが岡山の子どもたちの自分自身の課題というものについて見つけていって、そしてまたそれを解決していこうということから考えたときに、そういう筋道と、もう一つの資料など、それからその課題というものを見つけながら学習を展開させていくという2通りの考え方ができるのではないかと思った。保健と健康というものを比べたときに、学研のほうは保健に確かに多くの分量を割いており、3社と違うのはそこかと思っている。他の3社に比べて学研が少しそのところを重視しているのかということがうかがえると言える。先ほど大修館書店を推したのであるが、大修館書店に対して絶対これではなければという思いでもない。ここで合議的なものでお互いに話し合っ決めていくということになればよいと思う。
委員長	○ 比較的どっちかというのは。

教育長	○ どちらかと言われたら、やはりもとに戻ってしまうけれど大修館書店。学研のよさはあると言えるが。
塩田委員	○ そうである。本当に難しい。大修館書店もよく書けているなどというふうに思った。本当に詳しく書かれていて、余りスポーツの方向を見てなかったのであるが、スポーツとその割合でいくとどうなのか。それから、今ちょっと改めて見直してみるが、大修館書店、チャレンジというところで、それを1ページとって、改めて今学習したことを問い直す、そういうところは、学研よりはこちらのほうが強い。インパクトがある手法をとることができるのかというのは、新たに見直して感じたところではある。
委員長 奥津委員	○ 結論はどうか。 ○ 私は、最初の視点が薬物や喫煙に関するところであるが、その充実度では学研のほうがよいのではないかと思っているので、学研のほうが気に入っている。
委員長	○ やはり分かれたのか。難しい。 私も、今日は見えてないですが、今まで見た中で、スポーツの関係は体育の先生は割合扱いやすいかなと、普通の体育の授業でもワンポイントアドバイスはできる。ただ、保健のほうが、何か資料がないとできにくいかなと。そういうときに、大修館書店は読み物的なものが充実しているので、データもあるし、そういう意味で、それからさっき言った、どちらがよいとは言いながら、パラリンピックも大きく書いてあるということで大修館書店にしたらどうかと思うが、どんなものであろうか。よろしいか。もうちょっと何か。
教育長 委員長	○ 大修館書店であるか。 ○ もうちょっと何か、それぞれ工夫があってもよいと思って見せてもらったのだが。中身で、いかがか。
教育長	○ 先ほど塩田委員が言われた、チャレンジがあるのは大修館書店である。自分で中身が書ける、教科書に書けるようになっている。そういう中で、運動が二極化されている中で、自分自身の課題等に向けて、その中に本文を見比べながら自分で学習したことを書き込んでいくというような工夫はされているなどという気はする。
委員長	○ 学習を支える教科書ということで、大修館書店がそのチャレンジしようなど、内容を考えるために対応をしているということでもよろしいか。どれもそれぞれよいところや、そうでない部分もあるかとは思っているのだがという感じであるが。 よろしいか。
全委員 委員長 指導課課長補佐	○ <承認> ○ 大修館書店ということで、事務局、願います。 ○ 1点目は、喫煙、飲酒、薬物乱用、感染症など生徒が健康課題を身近に考えられる題材が充実している点。
委員長	2点目、文章表現が充実しており、本文に沿って学習する中で、関連資料とあわせて学習できるよう工夫されている点。 3点目、「チャレンジ」のページでは、実生活の場面での活用が想定され、自身の生活を見直していくための発展的な学習もできるようになっている点。 この3点でいかがか。
委員長	○ それで願います。 続いて、技術のほうへ移りたいと思う。事務局、願います。
指導課教育支援室長	○ それでは、技術家庭科技術分野についてご説明する。 岡山市の子どもの技術分野における課題は、特に生活の中で物づくりや生活意識としての経験が乏しいため、技術と社会や環境のかかわりについての考えを深めにくいということであった。そこで、技術と社会や環境のかかわりについて考える動機づけという点に注目して、技術分野の3社の教科書の特徴をお伝えする。

<p>奥津委員</p>	<p>まず、東京書籍である。A B判の特徴を生かして、実習の手順が見開きで左から右のページへ流れるように示されたり、大きな写真やイラストで例示されたりしている。情報モラルや情報セキュリティを初めとする情報の理解や実践について丁寧に扱われているという意見が出た。</p> <p>次に、教育図書である。持続可能な社会実現のための教育に関する内容が例示されたり、制作物等が家庭の中で使用されている写真が使われたりしているという点がある。</p> <p>最後に、開隆堂である。日本の伝統技術と最新技術との対比等の中で、技術の評価の観点が取り上げられ、ページの右上に関連する材料や道具、ページの下部の豆知識の欄に語句や単位の語源や歴史等が示されているという意見があった。</p> <p>以上で説明を終わらせていただく。</p> <p>○ 私は、東京書籍がよいと思う。少し大きく、内容もほかと比べて非常に濃いので技術でここまで要るのかと思うぐらいではあるが、やはりその分、内容が充実している。そして最後に防災手帳というもので、技術がこんなところに役立つのだというような防災との絡みと、技術の役立て方という意味では、生徒が興味を持ったり、あと実践的なところにつなげたりという工夫も見られたと思うのもあって、東京書籍がよいのではないかと思う。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ 私も東京書籍である。最初、ガイダンスのところ充実していて、技術というのは未来をつくるためにあるのだという、その物づくりを推奨して、夢をかなえるために発想や工夫が必要なのだというような、コンセプトがすごくはっきりして、それを最初に持ってくることで、技術への興味を引きつけるというような感じになっているかと思った。それから、中に技術のたくみをとというコラムがあって、そこで日本のさまざまなマイスターを紹介しているのであるが、こんなものが世界に誇れるマイスターみたいな形で、日本の技術、物づくりの力というのを改めて子どもたちが感じてくれる、そんなコラムになっているのではないかと思った。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 技術について、先ほどの子どもの課題という中で、物づくりの経験が乏しいというのは、これはもう岡山の子どものみではないのかもしれない。しかしながら、この経験のなさというものが、自分で色々な物をつくっていこうという中には、本当に経験もないという状況が生まれてきている日本の子どもたちと。そういう面から見たときには、先ほどの中で開隆堂のほうが、日本の歴史、技術の革新ということが、日本の技術と環境という面など、そういうものの日本の技術のすばらしさというものを取り上げながら物づくりへ導こうとしているということは、開隆堂のほうでは見えてきた。それから、東京書籍のほうは、情報のモラル、セキュリティという面から考えるときには、東京書籍はそこを取り上げながら来ているということが言えると。先ほどもう一つ見開きを利用した右から左へという流れということも東京書籍の特徴ではあろうというふうに思われる。</p> <p>東京書籍と開隆堂かというふうに思うのであるが、開隆堂に戻るが、ページごとの端に何かこう道具がそれぞれ紹介をしてあった。それぞれのところで道具が出ていて、道具の端のところへ道具の使い方がそれぞれ記してある。一方では、何かまとめて示しているところもあるようである。それから、それぞれの中で紹介をして、こういうところは気をつけなさいよというところが紹介されているのも一つ工夫としてはよいのかなというふうに思った。どちらか推すとなったら、開隆堂を推す。</p>
<p>東條委員</p>	<p>○ 先ほどと同じ視点なのであるが、子どもの課題のところ、3番目にふれられているが、情報モラルやセキュリティについての理解など実践が少し弱いということがあって、このことはどの教科書についても軽重はあるにしても項目として触れられているので、まあまあそれなりにどれを選んでもよいかなという感じが</p>

	<p>している。そしてもう一つは、持続可能社会のためにどうことができるかということについても、E S Dのことがあったので、それぞれの教科書が、これも軽重あったが、それぞれ触れられていて、トピックスに関してはそれなりにきちんと入っていてよいというふう思った。あとは、結局どういうふうなプロセスで学習していってもらうかということなのだろうと思うので、そういう観点で見ると、東京書籍の教科書は割と問題解決型というような感じにしようとしている意見も少しあったが、次々とやっていくというような感じで、子どもは使いやすいのだろうという感じがした。なかなか今、日常的に家庭でそういうことをする機会がないので、学校でしかできないとすると、やはりその辺のプロセスが割とはっきりと提示されているほうがよいのだろうという印象で、内容的には、それほどどれという感じはしなかったのであるが、生徒が学んでいくときのプロセスということであると、東京書籍の教科書が一番使いやすいそうだという感想を持った。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 私も、子どもたちが使うとしたら東京書籍が使いやすいのではないかという感じがする。基礎的、基本的な知識や技能について、割と丁寧に書かれているなど。皆さん、言われたように、やはり情報セキュリティに関しては、東京書籍が一番気を配っているなどという、SNSも触れておられるし、他のどこの教科でそれを勉強するかというと、少しないのかと。そうしたら、技術しかないかなという感じがしたので、ここで扱うのはよいと思った。</p> <p>それから、もう一つ、事務局に尋ねたいのだが、今ごろ物づくりは、平面図を書くのか。平面図が多い教科書とそうでない教科書があるが、余り平面図はこだわらなくてよいのか、やはり平面図があって、その物づくりができる基本を押さえていくのか、いかがか。</p>
<p>指導課教育支援室長</p>	<p>○ 製図については、基本的な部分は教える。授業の中で書くことは、当然ある。言語活動、技術家庭科の中の言語活動の一つに、図面から制作者の意図を読み取ったり、あるいは自分が意図したことを図面にあらわしたりすることとも言語活動だと言われており、そこは指導するようにしている。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ そうすると、濃淡はあるけれど、どの教科書にもあるということである。免許更新で来られる先生が、平面図がなかなか、書けないとまでは言わないけれど、不得意な先生も出てきているみたいなことを少し聞いたことがあるので、子どもたちにも要求されることなのか、学習指導要領の中にあるのかどうかという。ということは、やはり平面図もきちんと押さえながら、技術、基本的なことを押さえていくといくことである。</p> <p>開隆堂も、知的財産や個人情報のことなども、それから持続可能な社会という記述もあってよいと思うのだが、少し説明が多いという感じがしたので、少し使いにくいかなという感じがする。</p> <p>同様に、教育図書も、持続可能なエネルギー問題はよく捉えて書かれたのであるが、絵が余りクリアではないかなという、少し思った。</p> <p>東京書籍ということであるが、皆様方、いかがか。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 先ほど言われた子どもの思考の流れというものが考えられて、特徴から考えたときに、先ほど言ったようなご指摘をさせていただいたのであるが、子どもたちの、岡山の子どもたちの問題解決のためには、というような視点から考えたときに、皆さんの東京書籍ということも、それも選択肢だろうというふうには思う。</p>
<p>委員長 指導課課長補佐</p>	<p>○ 以上で東京書籍ということで、事務局、お願いします。</p> <p>○ 1点目である。A B判の特徴を生かして内容が構成されており、実習の手順が見開きで左から右のページに流れるように示されたり、大きな写真やイラストで例示されたりしている点。</p> <p>2点目であるが、現代の課題である情報モラルや情報セキュリティをはじめとす</p>

<p>委員長 全委員 委員長 指導課教育支援室長</p>	<p>る情報の理解と実践について、ていねいに扱われている点。</p> <p>3点目であるが、「技術は未来をつくるために必要だ」ということがガイダンスで取り上げられており、生徒が興味・関心を持って学習できるように工夫されているとともに、内容が問題解決型で構成されており、生徒が学習しやすいよう工夫されているという点。この3点でいかがか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いかがか。 ○ <承認> ○ それでは、家庭科について、事務局、お願いします。 ○ それでは、技術家庭科家庭分野についてご説明する。 <p>岡山市の子どもの家庭分野における課題は、特に生活経験が乏しいため、できないという意識が強く、取りかかろうとする意欲にもつなげにくいということである。そこで、わかりやすいことや意欲が持てることに注目をして、家庭分野の3社の教科書の特徴をお伝えする。</p> <p>まず、東京書籍である。学習指導要領に示されている学習内容のうち、生徒の興味、関心の高い、実生活に沿った部分から順に構成されており、ガイダンスにおいては生活と自分の関係の中で、何を目指し、何を学ぶかが丁寧に示されているという意見が出た。</p> <p>次に、教育図書である。家族と家庭生活について、アニメなどに登場する家族構成を取り上げたり、家族とコミュニケーションを図る際に、家族の気持ちを考えて行動する必要があることをロールプレイングで行うことで実感できるよう工夫されたりしているという点があった。</p> <p>最後に、開隆堂である。調理の内容が具体的であり、その活動内容が時間の経過とともに図や写真などでわかりやすく示されている。また、著名人の言葉が掲載されていることで、興味、関心を持って学習に取り組むことができるよう配慮されているという点があった。</p> <p>以上で説明を終わらせていただく。</p>
<p>塩田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3社見比べてみて、やはりESDの視点で書かれているのが東京書籍と開隆堂であったというところで、共生や持続可能な社会という視点を持って書かれているというところで、岡山市の子どもの課題の2、そういったところをカバーできるのではないかとこのように思う。その中で、東京書籍が、やはり写真がきれいというところで取っつきやすいという、それからイメージが湧きやすいという利点があるのではないかと考えた。それから、先ほどの技術のところでも言わせてもらったのであるが、ガイダンスはやはり充実をしていて、それからこういう一つ実技を伴う授業というのは、やはり最初にその注意喚起というのが必要だと思う。それが、東京書籍は、最初に実習を楽しく、安全に進めようというところがあって、それを最初に言って注意喚起をするというところは、やり方として重要なかなというふうに思った。東京書籍を推すのであるが、教育図書の最初に年中行事が取り上げられていて、これがほかの教科書にないかなというふうにちょっと探してみたのであるが、見られなかった。これから家族というところを考えると、やはり日本の年中行事をみんなで楽しみながらいくという視点がとても大切だったので、東京書籍の、ここはもう何か捨てがたい思いがしている。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私も東京書籍、開隆堂である。教育図書のほうは、ロールプレイングを取り上げながら家庭の役割分担をやっているところ、自分の視点、家族の気持ちが読み取れる、考えることができるというような取り組みの方法で示している。そういう特徴も見えたが、これからの社会というものを考えたときに、東京書籍と開隆堂。開隆堂は、学習指導要領の項目の内容というか、A領域ならA領域と、そうしたらまたB領域というような、そういう展開の仕方はしている。もう一点、子どもの興味、関心の高い実生活からやはり入っているのも開隆堂では

東條委員	<p>ないかと思った。</p> <p>また一方で、東京書籍は、全体のイメージをとっても持ちやすい展開になっている。部分だけを見るのではなく、全体を見通しながら学習をしていくというような展開のほう。これも迷うのである。東京書籍と開隆堂というのを迷うのであるが。いろんな、先ほど言った開隆堂のほうの特徴と、それから、自分で工夫しながら、できないという意識を変えていこうというのでは、少し開隆堂のほうを推したい気持ちである。</p> <p>○ それぞれ特徴が割とはっきりと分かれていると思ったが、教育図書は、独自の路線で頑張っているという感じがした。例えばロールプレイは家族の中では割とよく扱うものであるが、教科書としては取り上げられることは少ないのであるが、おもしろいことやっているなどと思った。ただ、何か全体にくすんで見えるのは損しているような気がするのだが。中身はなかなかおもしろいなどと思った。</p> <p>東京書籍は、学習配列が割と学びやすい感じできつられているので、少し大判になっていることは、先ほどの奥津委員の意見でいうとマイナスなのかもしれないが、見やすく、学びやすい感じになっていると思った。ただ、全体の子どもの課題でいうと、課題解決意識が低いということが、どの教科でも言われていることなのだが、そういう子たちに使ってもらおうということである。手順というのがよりはっきりしているもののほうが使いやすいだろうというふう思った。そういう点でいうと、開隆堂のものは、割と時間経過で次に何をしていけばよいのかということがわかるので、余りびんときてない子でも、ああ、こういうことだったのかというふうに学びやすい構造に比較的になっているのではないかと。ほかにも、それはもちろんそういう配慮になっているけれども、よりそこが強いかなという気がしたので、私も開隆堂がよいかと。</p>
委員長	<p>○ 私のほうは、開隆堂か東京書籍かと思って見たのだが、最後の決め手は、東京書籍は全体がわかるように表紙にフレーズがあるのである。自立と共生を目指してと、家庭科の最終目標がそこに書かれているのかと。女性と男性との共生かもしれないし、子どもたちと地域かもしれないし、家庭科に必要な要素はそこに、あと載っているのかというのでわかりやすいと思った。それで、E S Dの関係で、環境アクションプランというのが東京書籍には入れている。これから生活する中に、やはり環境アクションプランというのは必要なと思ったので、非常に具体的によいかなと思った。</p> <p>開隆堂もよいのであるが、5 Rをかなり詳しく取り組んでおられたと思う。持続可能なということで。さらには、裏表紙も利用して、裏表紙には実生活に関する野菜が書いてあったりして、1枚も無駄にしないぞというような感じがあって、これはこれでよいかなと思うが、全体を見渡して、家庭科の先生がどういう、子どもたちが大人になるのを育てていくのかというのは、どんな自分になりたいか、イクメンはなどという記述もあったようであるので、今はやりの言葉も入れながら、家庭人、社会人としてどうあったらよいのかという視点から入っていると思ったので、東京書籍がよいと思った。</p>
奥津委員	<p>○ 東京書籍と開隆堂、どちらかと思ってずっと読んだのだが、甲乙つけられないというか、好みの問題といたら変なのだが、何か決め手がないというふうな思いながら見ていた。ただ、写真がきれいだったり、子どもが親しみやすいのは東京書籍かと思ったりしながら、さっき言ったように、ちょっと軽いほうがよいのではないかという意味では開隆堂のほうがやや軽いのでこっちかと思った。東京書籍の中で、寿司がばらずしになっている。ちらしずしじゃなくてはばらずしになっており、岡山ということで、親しみやすさがある思い、どちらかといえば東京書籍と思う。</p>
塩田委員	<p>○ 開隆堂は、岡山の名産、ばらずしで出ている。</p>

委員長 塩田委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろんな努力を会社はしている。 ○ 料理の写真がすごくきれいである。 ○ とてもきれいである。特に東京書籍はビジュアルだなと思って、きれいだったから、何年もとっておいても耐え得るかなと。だから、相当お金がかかっている。さっき言われた、教育図書は、ちょっとくすんでいると言われたが、そんな感じもする。
東條委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ くすんでいるというか、独自の路線である。 ○ 大人色にしてくださっているのだらうけども、子どもたちがはっとして、使いやすく感じたり、使ってみようと思ったりなどというのは、ビジュアル的に優れているものなのかもしれない。
指導課教育支援室長	<p>家庭科も全部はなかなか使い切らないであろうけど、週に何時間であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 70, 70, 35で、技術家庭科なので、実質35, 35, 17.5。なので、家庭科は、1, 2年は週1時間、3年生は0.5時間ということである。
委員長 指導課教育支援室長 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ これは、男女共修か。 ○ そうである。 ○ ということは、男性も育児をしたり、調理をしたりやろうという意欲が出るような教科書がよいかと思うのであるが、いかがか。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ○ どちらも最終的に決めがたいよさというのは、先ほども言ったようにあるけれど。開隆堂を推したのは、先ほどの問題解決というところと、調理などが時間経過とともに詳しく写真で示されていて、手順を踏めてわかりやすい。東京書籍は、やはりページの、こう流れて見えるような、そこも工夫してある。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ ということだが、ぜひこれだけはあるか。東京書籍と開隆堂で、決定打がまだないのであるが、子どもたちが3年間かけて、男の子も女の子も一緒に学ぶということで。 <p>私は、最後の自立と共生を目指してというフレーズが特によいという気がしたのである。教科で目指すことに基本コンセプトがはっきりと出ているのかなと。いかがか。</p>
奥津委員 塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私は、東京書籍だったが、絶対に、これだとかだわっているのではない。 ○ やはり最初のガイダンスのところだろうか、導入の仕方。それから、最後にまた環境というところを題材に出して誌面づくりをしているというところで、東京書籍。流れの持っていき方が、やはりいつも上手かなというのは感じている。
委員長 塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ ガイダンスが有効と。 ○ ガイダンス、そうである。実習を伴うものは、その注意点が最初に出てきていて、楽しく安全にというところで、今回手洗いなどもちゃんと出ているし、そういったところはほかの教科書ではない特色かと思う。
委員長 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しく安全にというのは、大きいと思われる。 ○ 確かに、この東京書籍は、色はきれいである。それから、もう一つは、イラストが出ている部分がよい。
東條委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京書籍、開隆堂は、そんなに差がないなという気がしているので、開隆堂というふうなことを最初の意見では申し上げたが、東京書籍もまあまあ捨てがたいなというところの話だったので、確かに今、いろんなご指摘があったのと、東京書籍でもよいかというふうには思うので、意見は平行してもよいと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケートにこちらがというのはどうもなかったようなのだが、使うとしてこれでもよいという、そんなぜいたくなことを言うてはいけなけれども、こんなに拮抗していると難しいが、東京書籍で家庭科分野ということでもよろしいか。
全委員 委員長 指導課課長補佐	<ul style="list-style-type: none"> ○ <承認> ○ では、事務局。 ○ 1点目は、「自立と共生をめざして」というフレーズやガイダンスでは「実習を

<p>委員長 全委員 委員長 指導課指導副主査</p>	<p>楽しく安全に」など、生活と自分の関係の中で、何を指して何を学ぶかがていねいに示されている点。</p> <p>2点目である。写真が美しく、生徒にとって学習内容をイメージしやすいよう工夫されている点。</p> <p>3点目である。「共生」や「持続可能な社会」「環境」「アクションプラン」など、現代的な課題に対応できるよう工夫されている点。いかがか。</p> <p>○ よろしいか。</p> <p>○ <承認></p> <p>○ では、最後の1教科である。英語。事務局、お願いします。</p> <p>○ 外国語、英語についてご説明する。</p> <p>岡山市の子どもの外国語における課題は、特に英語で書かれたある程度の長さの文章を読んで理解することや、自分の思いや考えなどを英語で表現することにある。そこで、英語で書かれた長文の読解や英語で表現するための工夫に着目して、外国語の6社の教科書の特徴をお伝えする。</p> <p>まず、東京書籍である。ユニット末のアクティビティーでは、3つのステップ、プレゼンテーションのページではホップ、ステップ、ジャンプ、チャレンジと段階が分けられていて、少しずつ表現を広げ、きめ細かな指導ができるよう配慮されているといった意見が出た。</p> <p>次に、開隆堂である。マイプロジェクトでは、既習内容を活用して4技能の総合的な育成や4技能を統合して自己表現するような課題設定となっていたり、学習した内容を確認できるように学習箇所が記されたりしているといった意見が出た。</p> <p>次に、学校図書である。プロジェクトでは、少しずつ段階を追って学習を進めることができるように工夫され、無理なく表現活動が広がっていくような構成になっていたり、単語や文の書き方が具体的に示されたりしているといった意見が出た。</p> <p>次に、三省堂である。自分の考えや調べたことについて既習事項を活用して表現することができる内容構成になっていたり、USE Readでは、読めたかどうかをみずから確認することができるよう工夫されたりしているといった意見が出た。</p> <p>次に、教育出版である。附属のエッセンシャルズでは、重要表現がわかりやすく示され、家庭学習に利用しやすくまとめられていたり、全学年を通したCAN-DOリストが示され、目標の設定や自己評価ができるようになっていたりするといった意見が出た。</p> <p>最後に、光村図書である。CLIL 英語で学び、考えようでは、技術家庭、社会、理解、保健体育など他教科の内容の一部や食育や情報リテラシーの問題などを素材に、教科横断的に思考力や表現力を養うことができるといった意見が出た。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 全部を見たときに特徴がそれぞれあるのだけど、絞ったのは、東京書籍、三省堂である。東京書籍は、1年から3年までストーリーが通っているのである。したがって、子ども自身も1年で学習したことをさらに2年へというふうに進んだときに、ちょっと関心を持った取り組みしやすさというもの是可以すると思ってるし、先ほど指摘もあった、ホップ、ステップ、ジャンプと、またそれにさらに加えてチャレンジという段階がまた設けられていて、少しずつ表現を広げていく工夫ができると思う。先ほどの自分の考えや思いというものを英語で書くというものがなかなか岡山の子どもたちが苦手になっていることを考えれば、そういう細かく学ぶことによって次へのステップ、書くという活動に移りやすくなってきていると思われる。</p>

東條委員

三省堂は、読み物の読み方のコツが示されている。読みを深めていくための課題であって、読む力、理解するというが、これも苦手だということ。それらが三省堂のほうでは課題ということではできると思う。それから、子どもによって見やすいイラスト・まとめ方をしているということも見えた。さらには、基本文というのがあって、基本文と、そして今度学習していく文、基本文、既習した文とを比べながら学習を進めていくことができるというような示し方がされている。対比しながら学習ができるようにしてあることから考えて、岡山の子どもの課題から見たときに、どちらかと思ったが、対比もしながら学習し、さらには次へのジャンプというものを示しながらやっていくので三省堂を推したいと思う。

- これはちょっと多いので、同じように2つ、3つのところから意見を言いたいと思う。

1つは、子どもの課題のところに書かれていないことであるが、小学校の学習活動、英語活動とどういうふうに関係するのかなど、そういうことを意識しているのかということを加えて考えた。それぞれの教科書が全部もちろん意識しながらつくられてはいるのであるが、そこがより強く意識されているのがどれかという視点も加えて考えてみた。今の教育長の意見とよく似ているのであるが、そういうふうに見ていくと、東京書籍と三省堂がよいと思った。光村図書も、割とおもしろいつくりになっていると思ったが、全体的に見ると東京書籍か三省堂かと思った。

それで、東京書籍は、プレゼンテーションで、とにかく発信力というのを重視しているのだろうということがよくわかって、各学年でそれは3回だけなのであるが、そういうことをかなりやろうとしているという意図が読み取れる構造だったのと、それから、見るとわかるけれども、基本文というのが右の上のところにもあって、決まった形のものはいしやすいのだろうという感じがしたので、そういう点で魅力を感じた。

それから、三省堂は、もちろんそういう工夫がいろいろあるが、先ほど言ったように、小学校の英語科の活動、それとの連動というのがかなり強く意識されたつくりになっていると感じたので、この2つである。

どちらがよいかということと言うと、結局、語彙が定着しないなど、そういうことは、自分でできているかどうかのモニターが十分できていないということだろうと思ったので、それがコンテンツとして入っているチェックのコーナーがあり、三省堂の教科書が子どもの課題にも合っており、小学校とのつながりということもより強く意識されているので、三省堂がよいと考える。

委員長

- 3社に絞って考えてみた。東京書籍であるが、よい教科書だなど思いながらも、少し文章量が多く難しいのではないかなという感じがした。全国的にも中高一貫校が取り入れているということは、やはりそれなりの力量がないと理解しにくいのではないか。ホップ、ステップ、ジャンプはよいとは思う。

三省堂と開隆堂であるが、開隆堂の一番よいのは、Can-Doリストの充実というのは、これはもうポートフォリオ形式で、3年間、これを使えるので、現場の先生にとっては、とてもやりやすいのではと思った。同じようなCan-Doリストはほかの出版社にもあるのだが、一番具体的なのは開隆堂かと思った。他のものは、例えば今の小学校との連動のときに、小学校は字をあまり頭へ置かずには会話文である。開隆堂は、その流れで挨拶文から入っているかなと。ただ、中学校に来たときの英語は、やはり早い時期に書けたり、読めたりすることも要求されるので、そういう意味の範囲で言えば、三省堂のほうが、ステップが少し上がった中学校の英語かなという感じがした。

三省堂のすごいと思うのは、長文の文章にメッセージ性がある。例えば、中3でハゲワシを移したカメラマンの話といたら、随分この文章で読んで、英語

の勉強をただけではなくて、どう考えるかや、世界の状況がどうかというところまで発展できる。同じように開隆堂も、複合化的、総合的で、英語の勉強だけではなく、例えば、中学校2年生で比較級や最上級を教えるときに、世界の気温のグラフを使って最上級と比較級をする。さらに、それも北半球と南半球。だから、一ひねりして、いわゆるOECDが言うような学力に、英語は英語、数学は数学だけじゃなくって、つないでいるかという工夫は見られた。だから、開隆堂も非常に工夫をしている。しかし、総合的にメッセージ性であったり、持続可能なことであったり、プロジェクトとしてマッピング方式を採用したりなど、それからアルファベットの、やはり子どもたちに身近なのはキーボードだと思うのであるが、キーボードから入っている。私たちが学んだのはA B C Dから順番であって、ほかの教科書会社も比較的それが多かったのであるが、キーボードタッチの基本から入るといえるのは、結構わかりやすいという感じがしたので、三省堂かと思った。

奥津委員

- やはり英語は小学校で少ししかやらないと思うので、1年生がどういう順番で文法的なものをやるのかなという部分でざっと見てみたのであるが、意外と違っており、三省堂と東京書籍はb e動詞をきちんとやる。b e動詞、三人称のb e動詞までやった上で、次に一般動詞に行くというような構造になっているのに対して、ほかは、割ともう混ざって出てきたり、一人称、二人称のb e動詞が終わったらもうすぐ一般動詞に入って、その次に三人称が出てきたりといったような、そんな順番になっており、b e動詞をまずやった上で一般動詞に入ったほうが、やはり混乱が少ないのではないかと思います、その意味で東京書籍と三省堂というのがよいのではないかと思います。東京書籍もよいのであるし、また、中身も倉敷のことがちょっとコラム的なので出てきたり、宮間選手のことが出てきたりしたのは好感持てるというか、親しみやすく感じたが、三省堂もやはり題材的にキング牧師の話など、あのあたりは中学生にぜひ英語で読んでというのは結構意味のあることではないかというふうにも思った、また、最初のあたりに出てくる構造というか、学び方のチェックのあたりの項目か、そのあたりもしっかりできていると思ったので、どちらかといえば三省堂でよいと思った。

塩田委員

- 私もニューホライズンとニュークラウンなので、東京書籍と三省堂だと思うのであるが、最初にニューホライズンを読んだときは、1年、2年、3年と段階を踏んで、統一感があると思った。1年で英語に出会う、新しい世界を知るみたいな。2年になると、それを広げていく。3年になったら、そういったものを見据えて新たな視点で見詰め直すみたいな感じになっていて、3年の題材の取り上げ方が環境問題であったりフェアトレードであったりなど、そういう、ESDの視点が非常に目立った、若干読み物として高尚な、先ほど委員長も言われたけれども、やはりレベルが高いと。非常に世界的な視野でグローバルな観点を養うというのは、このホライズンがよい教科書だなというのはとても感じたのであるが、でも、これを岡山の課題を持つ生徒さんたちが見たときに、非常に取っつきにくいのではないかというのもあった。

それから、ニュークラウンであるが、やはり1年、2年、3年でホライズンと同じような形で、1年で言葉を知って、世界中に言葉があるということを知って、2年でそれを学んで、3年で世界という中で自分がどうかかわりを見ているかというステップアップの方式が段階を経てよい構成になっているなと思った。そんな中で、3年のものを見てみたのであるが、世界の中で自分ができるかということを考えるという視点で、結構身近に題材を捉えることができるかと思った。錦織圭さんなどの話があり、そういう身近な題材から親しみを持って勉強ができるという意味で、私はニュークラウン、岡山の子だとニュークラウンかなと感じている。

<p>委員長 全委員 委員長 指導課課長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ これは、ほぼ一致したような感じなのであるが、よろしいか。 ○ <承認> ○ ということで、事務局お願いします。 ○ 1点目であるが、基本文と既習文が示されており、生徒が既習内容との違いを意識して学習できるよう配慮されている点。 2点目である。読み物では、読み方のコツが示されており、自ら課題解決できるよう工夫されている点。 3点目であるが、第1学年から第3学年の題材が系統的に配列されており、生徒が身近な題材から親しみを持って学習できるよう配慮されている点。 この3点でいかがか。
<p>全委員 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <承認> ○ 2回にわたっての中学校の教科書採択は、全教科が終わったので、8月いっぱいには外には出さないということをお願いする。 それでは、続いて、事務局から小学校の説明を。
<p>指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最後に、小学校で使用する教科用図書についてお願いをする。 小学校用の教科用図書は、昨年度採択替えを行ったので、発行者が何らかの理由で出版できないというふうな、そういうものがなければ、現在、使用しているものを改めて採択という通知を出すということで、よろしくをお願いします。 現在、使用している教科用図書については、資料の3ページから6ページに記載をしているので、ご確認いただければということである。よろしくをお願いします。
<p>委員長 全委員 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ これに関して、何か意見はあるか。 ○ <なし> ○ それでは、採択ということで、採択地域の地域替えがあるところもあるであろうが、岡山市は昨年のものでスムーズにいくのではないかなと思われる。よろしくをお願いします。 それでは、以上で岡山市立小学校、中学校及び後楽館の中学校及び高等学校について、そして、先週行った小学校、中学校の特別支援のほうの教科書に関しても、来年度使用の採択の審議は全て終了した。 事務局から何かあるか。
<p>指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大変暑い中、膨大な作業量になったが、慎重にご審議をいただき大変感謝する。今後は、各学校の来年度の必要数、利用数を取りまとめた上で、県あるいは文部科学省のほうへ報告をしていくという作業になっている。なお、採択に係る資料、採択結果、あるいは採択理由、そういったものについては、冒頭でも申したように、8月31日までは公開をしないということでご配慮をいただければと思っています。なお、9月1日以降は、指導課のホームページで積極的に公開するという予定である。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 以上で臨時会を閉会する。

傍聴の状況		
報 一	道 般	1名 8名